

内容理解後に、登場人物たちの続きのストーリーを考える活動を行ったところ、生徒たちは教科書に対して「早く先を読みたい」「2年の教科書も読みたい」などの感想をもつことができた。主体的に学ぶ生徒を育てていくためにも、このように生徒が意欲的に取り組める活動を設定していくことが、大変重要であると感じた。

### Ⅲ 教科書シラバスからインタラクティブな活動へのブリッジング

日常生活の中で英語を使用する機会がほとんどない生徒にとって、英語学習に意義を見いださせるためには、教科書中心の学習だけでは不十分である。現在学校教育の中で主流となっているのは Type A シラバス(言語は、その構成要素をいくつかの部分に分割し、それを一つ一つ積み上げてゆくことで最も効果的に習得できるとする立場)である。Type A シラバスには、「今日何を学ぶのかがはっきりしている」メリットもあるのだが、これだけでは、実際の言語使用場面で creative に臨機応変に対応する力が育たないという欠点が指摘されている。(Syllabus and Materials by Dave Willis 2000, p.27. CELS, University of Birmingham)

そこで、Type A シラバスと Type B シラバス(言語は、実際の言語交渉、つまり言語を意味ある場面で相互に使用することを通じて、最も効果的に習得できるとする)の併用である統合的な学習活動を取り入れた単元の工夫を行った。

具体的には、

- ①教科書シラバスの上に、生徒にとって魅力的な統合的な学習活動を配置することで、学習を意味づける。
- ②統合的な学習活動を成功させるために、その期間の学習項目(単語、文法、語法、発音などの言語事項や言語機能)を駆使することで、それらの知識を統合し、目的をもって有機的に使えるようにする。

以上のことをねらい、単元構成を工夫してきた。

#### ※Type AシラバスとType Bシラバスの併用とは

両シラバスの相補的關係は、家庭科の「食物」の授業に典型的に見ることができる。Type A シラバスは、「第1回＝栄養素、第2回＝食品の安全と衛生管理、第3回＝調味料の各種、第4回＝食材の刻み方」などといった、断片化された知識の配列である。Type B シラバスは、「4月＝みそ汁を作ろう、5月＝チャーハンを作ろう、6月＝八宝菜を作ろう」などといった、イベントなりタスクの配列である。Type B シラバスで、魅力的な学習活動を適所に配列し、それに向けて準備する形で必要な知識を Type A 的に与えてゆくことが、両シラバスの併用ということになる。

しかし、単元のまとめとして大きなイベントとも言える統合的な学習活動を設定しても、教科書だけを扱っていたのでは、生徒は思うようにコミュニケーション活動に取り組むことが出来ないのではないかと考えた。それは、

- ①英語だけでコミュニケーション活動を運営するためには、その運営に必要な表現をお互いに知っている必要がある。
- ②不理解を表明するなど、communication strategy に関わる部分を日頃から練習しておかなければ、対話中に困難にぶつかったときにそれを乗り越えることが出来ない。
- ③生徒が実際にコミュニケーション活動に取り組んだ後、今後の課題としてあげられた部分について重点的に練習する機会が必要である。

以上のことから、「統合的な学習活動を支える活動」を設定し、授業の初めに様々なウォームアップ活動を行ってきた。

## (1) J-E Card(日本語で言われた表現を英文で表現する)

No.	Japanese	English	①	②	③	④	⑤
1	全くその通りです。	You are quite right.					
2	説明して下さい。	Please explain it to me.					
3	なぜなのかって。	Please tell me why.					
4	どうしてそう思ったの?	Why did it happen?					
5	どう思う?	What do you think?					
6	あなたの意見は?	What's your opinion?					
7	これはどう?	How about this?					
8	はっきり分かった?	Is that clear?					
9	分かった?	Do you understand?					
10	質問してもいい?	Can I ask you a question?					
11	もちろん。	Sure.					
12	分からないよ。	I don't understand.					
13	ちょっと待って。	Just a minute.					
14	と言うと...	You mean...					
15	きて。	Well...					
16	ところで...	By the way...					
17	説明させて。	Let me explain.					
18	〇〇はどうだった?	How was 〇〇?					
19	お願い、分かって。	Please understand.					
20	私もそう思います。	I think so, too.					
21	そうは思わないな。	I don't think so.					
22	教えてくれてありがとう。	Thanks for telling me.					
23	大変助かりました。	It was great help.					
24	いい考えだね。	Good idea.					
25	とても気に入ったよ。	I liked it very much.					
26	いいと思うよ。	I think it's nice.					
27	大きい声で話してくれる?	Can you speak up?					
28	もっと分かりやすく。	Speak more clearly.					
29	もっとゆっくり話して。	Speak more slowly.					
30	それでもいい?	Is that OK?					
Points			74	23	34	29	24

対話場面で活用させたい表現をJ-E Cardで練習

日常生活に近い場面を想定してコミュニケーション活動を行うとき、文法の習得や語彙、表現の暗記だけでは対話は成立しにくく、特に1年生ではコミュニケーション方略についての指導が大切になる。分からないことについて不理解を表明したり、聞き返すなどができるよう、これらの表現を練習した。それまで、相手の言うことが分からないと、分からない自分が悪いのだ、と対話の継続をあきらめてしまう生徒が多かったのだが、これにより、少しでも相手の意図をくみ取ろうとする姿勢が育ってきた。また、対話活動そのもので必要となる表現も練習に取り入れてみた。

## (2) Short Dialog

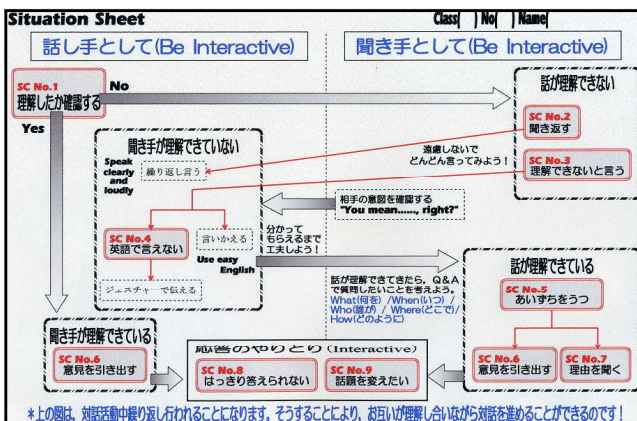
★対話が終わってから記入しよう!★(ここではペアに聞き直してはいけません)

A: Are there any special events in your town?  
 B: Yes, there are. We have Fujiwara fireworks event.  
 A: What do you think about Fujiwara fireworks event?  
 B: I think (hope) it is very beautiful.  
 How about your town?  
 A: We have Fujiwara big festival.  
 B: What do you think about Fujiwara big festival?  
 A: I think (hope) it is noisy, but very nice.

Short Dialogのねらい

生徒は、対話を成立させるために空欄に入る言葉を考えて友達と対話をする。しかし、対話中にはメモをとってはいけように指示をしている。これにより、分からない言葉や聞き逃したことはそのままにしておかず、聞き返しや不理解表明を行う練習になる。また、対話が終了したところで対話文を記入させることで、自分や友達が発話した文の、文法の正当性について振り返ることができる。

## (3) Situation Practice



Situation Card(J-E Card)		Class	No	Name			
場面	Japanese	English	①	②	③	④	⑤
① わかりましたか？ すばる	はっきり分かった？	Is that clear?					
	私の言いたいこと分かった？	Do you know what I mean?					
	聞こえた？	Did you hear me?					
	わかった？	Do you understand?					
② 聞き返す	何を言ったの？	What did you say?					
	何？	Pardon?					
	聞き取れなかったんだけど。	I couldn't catch that.					
	大きい声で話してくれる？	Could you speak up?					
③ 聞き直して と書かない	難しくて分からないよ。	It's over my head.					
	分からないよ。	I can't follow you.					
	分からなくなってきたよ。	I'm lost.					
	もっと分かりやすく話して。	Could you speak more clearly.					
④ 言い換えて 書かない	他の言い方で書いて。	Could you say it in another way.					
	もっと簡単な言葉で書いて。	Could you say it in simpler words.					

左図の場面で使いたい表現が、右図で表されている。例えば、左図の「聞き返す」場面には"SC No.2"と書かれている。この表現が、右図の②の欄にある。各場面の困難な状況を意図的に作り出し、それぞれの表現を練習した。

## (4) Active Listening

**Active Listening ①**

Class( ) No( ) Name( )

★説明文★ (引っ越してきた生徒が初めて自己紹介する文)

Hello.  
My name is Taro Yamada. Nice to meet you.  
I'm from Kyushu.  
I like baseball very much.  
I will be a member of the baseball club in this school.  
I had many friends in Kyushu.  
They were very kind.  
Some friends were very interesting.  
My best friend is Satoru Satonaka.  
He will come to this school next year.  
I'm happy.  
I will study hard at school.  
That's all. Thank you.

対話活動で、より相互理解を深められるよう、内容に関する質問を

できるだけたくさん行う練習

あらかじめ用意された表現を対話中に使用したり、簡単な感想を述べることはできても、内容に関する質問をすることはなかなか難しい、という声が、統合的学習活動の事後の感想から多く聞かれた。そこで、事前に用意された小話を聞いて、できるだけたくさん質問をする活動をおこなった。活動後は、どんな質問ができそうか話し合う場面も設定した。

1 T	Do you play it every day?
2 speaker	Why were they very kind? Why?
3 T	How many friends did you have?
4 T	Why does he like piano?
5 T	Why does he play the piano?
6 T	Where did you go?
7 T	When did he play?

2回  
↓  
12回

## (5) Topic Talk

### Topic Talk活動の概要

あるトピックについてペアで2～3分間トークをする。一方的ではなくお互いの情報を交換する活動であるため、問い返し表現や、新たな情報を求めたり、加えたりしなければならない。また、関連ある話題を提供し、会話を継続、活性化させる練習をおこなった。トピックについては、できるだけ生徒にとって身近で話しやすいトピックを選ぶようにした。また、発展的な取り組みとして、4人によるトピックトークもおこなった。

TOPIC TALK									
目標: 沈黙をつくらない。									
Day	Partner	Topic	Information	A-B-C-D Evaluation					
				①	②	③	④		
1	4/1	Kota My	His treasure is his notebook computer.	B	B	B	A	Toshifumi	
2	5/2	Seiko My	Her favorite thing is her dog.	B	B	B	B	Toshifumi	
3	5/2	Mikuru My	He played PG game every day. He played it five times every day.	B	A	A	A	Toshifumi	
4	5/18	Mikoto MUSIC	She likes music. She can play the sax. She has been doing it for 2 years.	B	A	B	A	Toshifumi	
5	6/4	Takiko Favorite season	She likes winter because she likes to play skiing.	B	B	B	B	Toshifumi	
6	6/2	Tamami Trip	He has been to Hokkaido. It is very cold.	B	B	B	B	Toshifumi	
7	7/15	Mikoto Summer	She is going to take part in brass band contest.	A	B	A	A	Toshifumi	
8	9/11	Mikoto Favorite season	She likes summer because we have long vacation.	A	B	A	A	Toshifumi	
9	11/1	Shun Favorite country	He wants to go to America. He wants to eat hamburger. L. like.	B	A	B	A	Toshifumi	
10									

Evaluation: ①会話を続けようとした。 ②多くの文の形を使おうとした。 ③会話が盛り上がった。 ④相手を見ながら会話をした。

## (6) Description

### Description活動の概要

ある物事について英語で説明し合うペア活動である。示された英語について、既習の語彙や文を駆使して説明をする。対話の途中で言いたいことが言えなくなってしまった場面を想定した言い換えの練習と、お互いの理解を確かめ合いながら interactive に対話するための練習をおこなう。この活動は、ジェスチャーなしで英語のみを駆使する活動である。

**Description**

Date: 3年( )組( )番 名前( )

相手が説明してくれたもの: Green tea

これで分かったよ! キーワードorキーセンテンス

Japanese people like it.  
We drink it every day.  
It's green. It is made in Shizuoka.

聞き上手になろう! (使った表現にチェック!)

「分かっているよ」「わかっていないよ」の意思表示

聞き返しの表現 (例: Fruits? Red? Sweet?)

質問の表現 (例: Is it hot?)

時間が余った場合は情報を繰り返し返し、確認する。

**Description ⑤**

1	calendar	カレンダー
2	grape	ぶどう
3	rice	ご飯
4	thumbtack	画びょう